

演目

美田八幡宮での祭礼は「神の相撲」「獅子舞」「田楽」の3部で構成されています。それぞれの演目には意味があり、見所が隠されています。

神の相撲

「田楽」と共に奉納される伝統芸能。少年二人が相撲をとる所作をした後、神殿を3周し、豊漁・豊作の両方を祈願するものです。そのため、豊漁・豊作を意味する2人の少年が一緒に戻ってくることで、勝ち負けを決めないことがルールとなっています。



獅子舞

大人2人立ちの獅子で、胴（太鼓）やお囃子、妙鉢の音に合わせて、寝込んだり、ノミ取りをするなどさまざまな所作を演じる。本土でみることができると一般的な獅子舞の所作とは少し異なった舞をするのが特徴です。



田楽

1時間半にも及ぶ十方拝礼の踊りは、精細な順序次第を持っています。それぞれ役ごとの個別の踊りがあり、最初に僧衣姿に大きな田楽笠をかぶり、手にピンザサラを手にした「中門口」2人が踊ります。



続いて鶏冠を被り鼓を手にした「鳥（スッテンデ）」2人が掛け声を掛けながら踊ります。今回、「鳥」は父娘で務め、息びつたりの踊りが披露されました。



次に真赤な田楽笠、赤い衣装を身に付け、手に擦りザサラを持った「子ザサラ」2人が登場し、「鳥」の掛け声に合わせて踊ります。



個別の踊りの後、最後の全員による「総踊り」が舞われますが、既に登場した6人に田舎笠を被り、ピンザサラを手にした脇踊り6人を加え計12人で踊ります。規則的な体系の変化を見せながら、四方八方に天地を含めた、十方を拝みながらの踊りが見どころとなっています。



見に来てくれる方たちの
為にも、良い演技を



桜井 いわお さん

現在、85歳というご高齢にも関わらず、十方拝礼の囃子(はやし)を演じ、また、後進の指導にあたる桜井厳さん(大津地区在住)は、10歳の頃から十方拝礼に携わって来ました。当時は、十方拝礼に対し、あまり良い印象を持っておらず、世話役や小学校の校長先生の説得に根負けし、子ザサラを躍ることになったと言われます。その後、脇踊りや中門口を経験し、現在は囃子を担当しています。

元来、十方拝礼は美田7地区にそれぞれ役割があり、踊り手は美田の大津地区から出すこととされてきました。そのような背景から、大津地区に住む桜井さんには、いつしか責任感と使命感が芽生え、今に至っていると話されます。

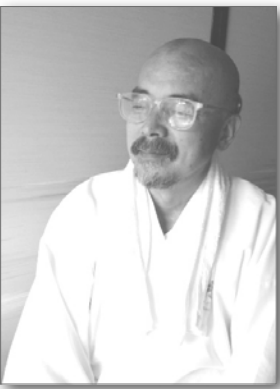
昔は娯楽が少なく、十方拝礼の練習や本番には多くの見物客が訪れていたそうで、「その時代から見に来る人たちの為にも、踊りの完成度を上げていきたい。今の踊り手ももっと魅力ある踊りが出来るような素質が十分ある」そう笑顔で語られます。

十方拝礼の練習は、1週間から10日間程です。昔の踊り手は、長年、十方拝礼に携わって来た人が多く、2年間の期間をおいても、踊りを覚えており、1週間程度は踊りの仕上げに費やしていたそうです。しかし、現在は、初めてや2回目という踊り手が多く、短い期間では、踊りを覚えるがやっつとで、踊りの完成度を上げるためには、何かしら考える必要があると話されます。「一見、単調なリズムと踊りに見える十方拝礼だが、動作を大きく思い切り躍ることで、より迫力のある踊りになり、『さすが、西ノ島の方々に言われる礼!』と、地元や島外の方々に言われるような踊りに近づいてくれれば」そのように熱く語られました。

「子どもの頃から携わっている十方拝礼がこれからも次の世代に引き継がれるよう、体が元気なうちは、携わり続けたい」そう元気に語られる桜井さんからは、十方拝礼に対する熱い思いと使命感が感じられました。



誇り高き十方拝礼の継承と
発展に尽力していきたい



長福寺ご住職
たかはし えいこう 高橋 英康 さん

桜井さんと同じく、大津地区在住で、子どもの頃から十方拝礼に深く関わってきた高橋英康さん。高橋さんは、以前の十方拝礼の練習場であった長福寺ご住職のご子息(現ご住職)であり、物心が着く頃から十方拝礼を見て育ったと言われます。高橋さんは、学校を卒業し、お寺の修行に入り、西ノ島に帰ってきた25歳の頃から本格的に十方拝礼に携わるようになりました。

「十方拝礼とは、自然に畏怖の念を感じ、西ノ島の美田地区を代表し、五穀豊穡を祈願すると共に、自然の恵みに、そして命に感謝すること」このような伝統に携わることができ光栄だと言われます。

それに加え、文化的にも珍しく、魅力ある伝統文化の素晴らしさを町内や島外の方々に伝え、広めていくことが重要と語られます。

語られます。

その昔、田楽の珍しさからか、東京都や福井県、広島県、またはアメリカなどから講演依頼があり、十方拝礼は多くの土地で披露されてきました。

「自分たちが守り、継承してきた伝統文化を色々な土地で披露できたことは、自分たちにとって大変誇りであり、このような伝統文化が色濃く残る歴史深い隠岐・西ノ島の素晴らしさを知ってもらうことに繋がったのではないか」そのように語られます。

美田八幡宮での奉納の前日に長福寺境内前に行われる、「笠ぞろえ」は、以前ゴザを引き、その上で行われていました。しかし、見物客から見にくく、一昨年から舞台を作成し、舞台の上で踊られるようになりました。

少しでも十方拝礼が見やすくなるよう尽力し、踊り手が気持ちよく踊れるよう配慮する高橋さんからは、十方拝礼への畏敬の念と普及への思いが伝わってきました。「今後も十方拝礼を次世代へ受け継ぎ、発展に尽力していきたい」そう力強く笑顔で語られました。

